

野菜の展望

今月の野菜は主産地の降雪及び低温・干ばつ等による影響から小玉傾向や生育不足が散見され、露地野菜は全体的に出荷量が減少する見込みです。特に葉物・洋菜類を中心に上旬は不安定入荷となり、品薄となる品目もありますが、天候次第で作柄回復も十分考えられます。

根菜類の大根は徳島・千葉中心に九州産の入荷で、千葉産についてはトンネル栽培物に切り替わるため数量は減少しますが、徳島産はピークを迎えます。人参は愛知・鹿児島産主力の入荷です。鹿児島産は上旬からマルチ栽培物(新人参)に切り替わり、平年並みの入荷を見込むも、関東産の入荷量は年々減少傾向です。蓮根は石川主体に茨城・愛知からの入荷で、太物を中心に順調な入荷が見込まれます。甘藷は石川産主力に関東物(茨城)の入荷で、石川産は順調な入荷見込みです。

果菜類の胡瓜は高知・愛知・群馬産の入荷で、平年並みの入荷となります。南瓜はメキシコ・ニュージーランド・沖縄からの入荷で、メキシコ産については中旬にて終了予定です。トマトは愛知・岐阜産中心に九州各地から入荷があり、愛知産のファーストトマトも増量となりますが、入荷量は豊作であった前年を下回る見込みです。ピーマンは高知主体に鹿児島産の入荷で、平年並みの入荷見込みです。豆類の砂糖豌豆は静岡・愛知産、スナック豌豆は鹿児島・愛知産、ピース・空豆は鹿児島産の入荷があります。

葉茎菜類の白菜は愛知・兵庫・茨城産主力に九州産の入荷があります。愛知・兵庫産については低温・干ばつの影響から小玉傾向と見られ、加えて秋冬白菜が終盤を迎えるため、中旬以降は若干不安定な入荷も予想されます。キャベツは愛知産主力に九州産(鹿児島・宮崎)の入荷です。低温・干ばつの影響で生育不良が見られるため、かなりの小玉傾向と予想されます。葱は結束物が石川・静岡・愛知・九州産、5kgバラ物は埼玉・群馬産の入荷です。秋冬葱はピークを迎えるものの、夏場の高温・干ばつの影響から平年より少なめと予想されます。ほうれん草は岐阜・群馬・福岡・愛知産に加え、中旬からは徳島産が加わります。ブロッコリーは愛知・大阪・高知・鹿児島・長崎産に、輸入物(アメリカ)の入荷予定です。上旬は低温・干ばつにより小玉傾向と見られるも、中旬からは回復すると思われれます。レタスは寒波の影響で結球不足や小玉傾向が見られましたが、回復基調にあります。

菌茸類の生椎茸は石川産菌床物中心に富山・徳島・岐阜産の入荷となります。石川産は新しい菌床ブロックでの栽培で順調な入荷が期待されます。原木椎茸は「のと115」中心の入荷となります。しめじ・なめこについては正月休みの影響も解消されて入荷は徐々に増量となる見込みです。

土物類の馬鈴薯は北海道・鹿児島(離島)産の入荷です。北海道産については残量を見ながらの計画出荷となります。新物は鹿児島産主体で、離島物に関しては天候の影響により小玉傾向となりそうです。玉葱は北海道からの入荷で残量は多くなく、輸入物についてはタイ産の入荷が始まります。

節分やバレンタインデーなどの各種イベントに併せて企画立案の上、販売拡大にご協力をお願いいたします。

《野菜第一部 田中 昭市》

果実の展望

今月は立春を過ぎても、寒い日が続き降雪の心配もあるということで、春はまだ遠いようです。

みかんは長崎・静岡・徳島産の入荷で大玉傾向となります。生産量については表年であるものの、当初予想を下回り前年比90%強の出荷見込みとなります。徳島産の貯蔵物は十万温州中心に上旬からの入荷が見込まれます。

本格的な出荷となる中晩柑類は伊予柑をはじめ八朔・デコポン・ポンカン・清見・せとか・甘夏等が愛媛・和歌山・熊本・佐賀・鹿児島・長崎等各産地より出揃ってきます。品質は良好で酸切れも良く、食べやすい仕上がりとなっています。

伊予柑は主産地である愛媛県 JA えひめ中央の出荷量が前年比108%を見込むものの、下方修正により前年並みに落ち込む可能性もあります。玉流れは3L・2L中心となります。

八朔は和歌山産主体に週2～3回の販売予定で、L玉中心に若干大玉傾向と見られ、前年並みの入荷が予想されます。

デコポンは鹿児島・熊本・佐賀を中心に福岡・和歌山・愛媛産の入荷となります。各産地の出荷量は前年並みで若干小玉傾向となり、20玉中心の入荷が予想されます。

メロンについては静岡中心に高知・熊本産の入荷となります。静岡産については前年に比べて90%の出荷予想ですが、高知・熊本産については、昨年に引き続き作付面積の減少に伴って出荷量は減少します。

莓は愛知・九州の各産地から栃乙女・さがほのか・さちのか・あまおう・章姫といった品種が出回り、上・中旬には二番果の増量が見込まれ、下旬以降には三番果も出回ると予想されます。

りんごは青森産のサンふじ中心に王林・ジョナゴールド等の入荷があります。36・40玉中心の玉流れで、出荷量については、産地在庫が少ないため単価高となりそうです。

キウイフルーツは33玉・36玉中心に福岡・愛媛産の入荷がありますが、入荷量は前年に比べて70%台となっており、単価高で推移すると思われます。

輸入果実のバナナはフィリピン・南米産中心の入荷です。フィリピン産は輸入調整となるため入荷量は若干減少する見込みです。オレンジはカリフォルニア産ネーブル種が小玉傾向での販売スタートです。入荷については産地出荷の出遅れが見られたものの、出荷作業は急ピッチで進んでおり、72玉中心に安定した入荷が予想されます。フロリダ産グレープフルーツはホワイト・ルビー種ともに大玉傾向で安定した入荷が予想されます。レモンはカリフォルニア産の入荷です。パインについてはゴールデン種が週1回、スィーティオ種は週2回の販売で安定した入荷となります。トロピカルはメキシコ産ハネジューメロン・チリ産レッドグローブを中心に南半球の商材が増加してきます。ただ、チリ産レッドグローブについては天候不順の影響で入荷は減少となりそうです。乾燥果実では、甘栗・干芋・干柿等の順調な入荷が見込まれます。

今月も何卒宜しくお願い申し上げます。

《果実部 大西 信哉》